

# ろうきん推進機構の取り組み

ろうきんには、他の金融機関にはない独特の組織があります。それが、「ろうきん推進機構」です。各労働組合からの代表者で構成された自主組織で、労働組合が組合員に対して行う福利共済活動のうち、お金に関する問題についてろうきんとともに議論します。各労働組合は、そこで確認された内容を基に「RKK(ろうきん活動計画)」を策定し、組合員に対して推進・展開しています。

東海ろうきんでは、2014年度～2016年度の3か年を第7期中期経営計画期間として、同期間における営業推進3か年計画を推進機構とともに策定し活動してきました。また、2017年度～2019年度の3か年を第8期中期経営計画期間とし、同期間における「生活応援運動3か年推進方針」を推進機構とともに策定し活動します。

東海ろうきん推進機構は、「東海運営推進会議」「地区運営推進会議」「店運営推進委員会」などの会議で行う議論のほか、意見・情報交換に幅と厚みを持たせるため、「東海運営推進会議」が主体となり様々な取り組みを実施しています。

今回は、推進機構のトップである東海運営推進会議の平井議長に、労働組合の活動、推進機構の役割や取り組み等について語っていただきました。



東海運営推進会議 平井 良和 議長

ないと思われる組合員もいると思うが、東日本大震災時に東北へボランティアに行った時、労働組合やろうきんの価値がはっきり解った。この時に自分が昔、先輩に言われて疑問に感じながらやってきた共済加入活動やろうきん推進活動は「無駄ではなかった」と痛感した。本当に組合員のためになっていた。だから推進委員や組合役員の皆さんにも自信を持って組合員に勧めてほしい。特にろうきんは、店舗が流された所もある中で、通帳や印鑑が流され困っている組合員に対し本人確認ができれば引き出しができるよう対応された。また、労働組合と一体となった活動として職員のボランティアや寄付にも取り組まれた。これらの活動は“ろうきんらしさ”であり『ろうきん運動』の原点であると考え。ろうきんの歴史は、銀行からお金を借りられない組合員にお金を貸すということからスタートしている。今の時代ではこの有難みは解らないかもしれないが、いつの時代でも組合員の役に立つことがろうきんの果たすべき役割と考えるし、ろうきんの労働運動というものはそこに価値がある。この役割を見失わずに活動することが大事なことである。

## 組合員に対する世話役活動について教えてください。

労働組合の世話役活動は、組合員のニーズを捉えることから始まると考える。組合員の組合離れが言われているが、労組役員が組合員から離れていっているのではないかと懸念もある。そこで常に心掛けていることは、入社された時や結婚、出産といったライフイベントに合わせてその組合員と顔を合わせ、金融や保険についてどのようなことを望まれているのか、併せてろうきんや全労済等の利用によりこのようなメリットがあるのではないかとということをしっかり提案していくことである。この活動が、世話役活動の基本と考えている。

## ろうきんの役割はどのようなこととお考えですか。

例えば、金利は他行と比べ何が違うのかと聞かれることがある。その中でろうきんが果たすべき役割は、いざとなったらろうきんということを経営者に理解してもらい組合員に伝えていくことである。他行を利用しても変わら

**2017年度からスタートする「生活応援運動3か年推進方針」において、推進機構の役割として【「対話」を通じ情報を共有化し、ろうきんとともに生活応援運動を推進する。】ことを掲げられました。**

2017年度の方針を策定するにあたり、昨年度の活動を振り返り感じたことはコミュニケーション不足である。

今までのろうきんのビジネスモデルは預金を結集し、必要な人に貸し出すことで利ざやを得ることが中心だった。これは、ろうきんの使命でもある。ところが、ゼロ金利政策により金利が低下し、資金を必要とする組合員にとっては良い事だがろうきんとしては利益が確保できない状況になった。それで昨年度は非常に厳しい施策を打ち出してきたわけだが、この時に推進機構との間でコミュニ

ケーション不足があった。ろうきんからは状況を推進機構に伝えてもらいたかったと思うし、推進機構からも伝えられていなかった事をろうきんへもっと早く問うべきだったと反省している。推進機構とろうきんがお互いの考えを明確にして議論することが後手に回ったことは、お互いの反省点だったと考える。

これらを踏まえ、まず【対話による取組み・情報の共有】を挙げた。言い換えると『グッドコミュニケーションの促進』である。推進機構とろうきんとのコミュニケーションに留まらず、推進機構内、労組役員と組合員など、コミュニケーションを要する場面は多くある。厳しい時に真剣に一緒になって取り組んだ人達は、それから先もずっと一緒に取り組んでいける。きっちり手を携えて取組み、ろうきんは利益を確保しその利益を会員・組合員に還元することを継続してもらわなければならない。働く仲間が作ったろうきんを推進機構や会員が支えていくことは当然のことなので、コミュニケーション不足によるボタンの掛け違いは無くしたい。

次に【『RKK(ろうきん活動計画)』の推進・状況把握】であるが、歴代の議長がRKKの推進を図ってきていただき、東海ろうきん特有の取組みとしてようやく根付きつつあると感じている。形のうえでは提案率・提案確認率・実施率は100%に近い状況になってきた。昨年度の推進会議では、そろそろもう一步踏み込んだRKKの活動をしていくべきではないかとの意見をいただいた。まだまだ会員間の温度差もあると聞いている。今後は、皆で知恵を出しながら、組合員の生活がより良きものになるよう取組みを進めていきたい。併せて、支店別の取組み状況の共有化、或いはより良い取組みの共有化をしていくべきであり、取組みが進んでいない会員についてはどういったことをしたら取り組んでいけるのか、もう少し深い議論をしていきたいという想いがあり『RKKの更なる推進』を図っていきたい。

最後に【推進委員会の活性化】である。これまでも活性化を図ってきているが、今の時代を考えると預金・融資ともに運動として取り組んでいかなければ、ろうきんの推進という役割を果たしていけないと思っている。まずは推進機構が、ろうきん職員とは違う立ち位置で会員・組合員を代表して出てきていただいている店運営推進委員長としっかりとコミュニケーションをとったうえで活性化を図っていききたい。

### 推進運動を行ううえで課題と感ずるものはありますか。

低金利が続く中での取組みは課題と考える。低金利を補うことができる施策があれば、推進機構とろうきんが一緒になって検討したいと思っている。例えば、預金の金利上乘せができないのであれば何らかのインセンティブを付けるといったことが挙げられる。運動と併せて会員組合員にメリットを感じてもらい、推進に繋げていく必要がある。

もう一つは、ろうきん運動、労働運動についてである。近年、労組役員の入れ替わりが早くなってきており、運動の継承に課題がある。ろうきんの歴史や、何故ろうきん運動に取り組むのかといったことがバトンタッチできているのか不安に感じている。推進機構としても、ろうきんの歴史や理念を新任の店運営推進委員や労組役員に伝えていく必要があると思う。

これらの課題は、一つひとつきっちり克服していきたい。

### 働く仲間とその家族のために役に立つろうきんであってほしい。



本当に困った組合員に対してろうきんは役に立つという商品・制度を、今後も検討していただきたい。例えば、高齢になるとお金を借り難くなるといった問題を解決できるような

ものがあってほしい。困った組合員を助けられないのであれば、存在意義を問われてしまうと考える。ろうきんFCを中心、生涯取引に繋げる活動をしていただいているところであり、若年層から高齢層まで組合員のために役に立てる制度設計をしていただきたい。後手に回ることなく困り事を解決できるよう運動と制度設計を進めていただくことと併せ、推進機構も訴えていかなければならないと思っている。

また、ATM利用手数料全額キャッシュバック等の良い制度は、もっと知らせていかなければならない。組合員のお子様は銀行口座を作る時、手数料キャッシュバックはメリットになる。その後も継続して使ってもらえると思う。自分の子供が大学生になる時には、ろうきんの口座を持たせてやりたい。

働く人のためのろうきんという位置付けは今後も変わらない。これからは『おやごころ』を活用するなど、より幅の広い推進というものも必要になってくる。

### 今後、活動していくうえでの「想い」をお聞かせください。

温故知新という言葉がある。私もろうきんの歴史・理念を理解したところである。歴史を受け継ぎながら、大きく変わる世の中に合わせた労働運動・ろうきん運動を展開していかないと、何れこれらが不要となってしまう恐れがある。時代に合わせた運動を考えながら、推進活動をしていきたい。

以上